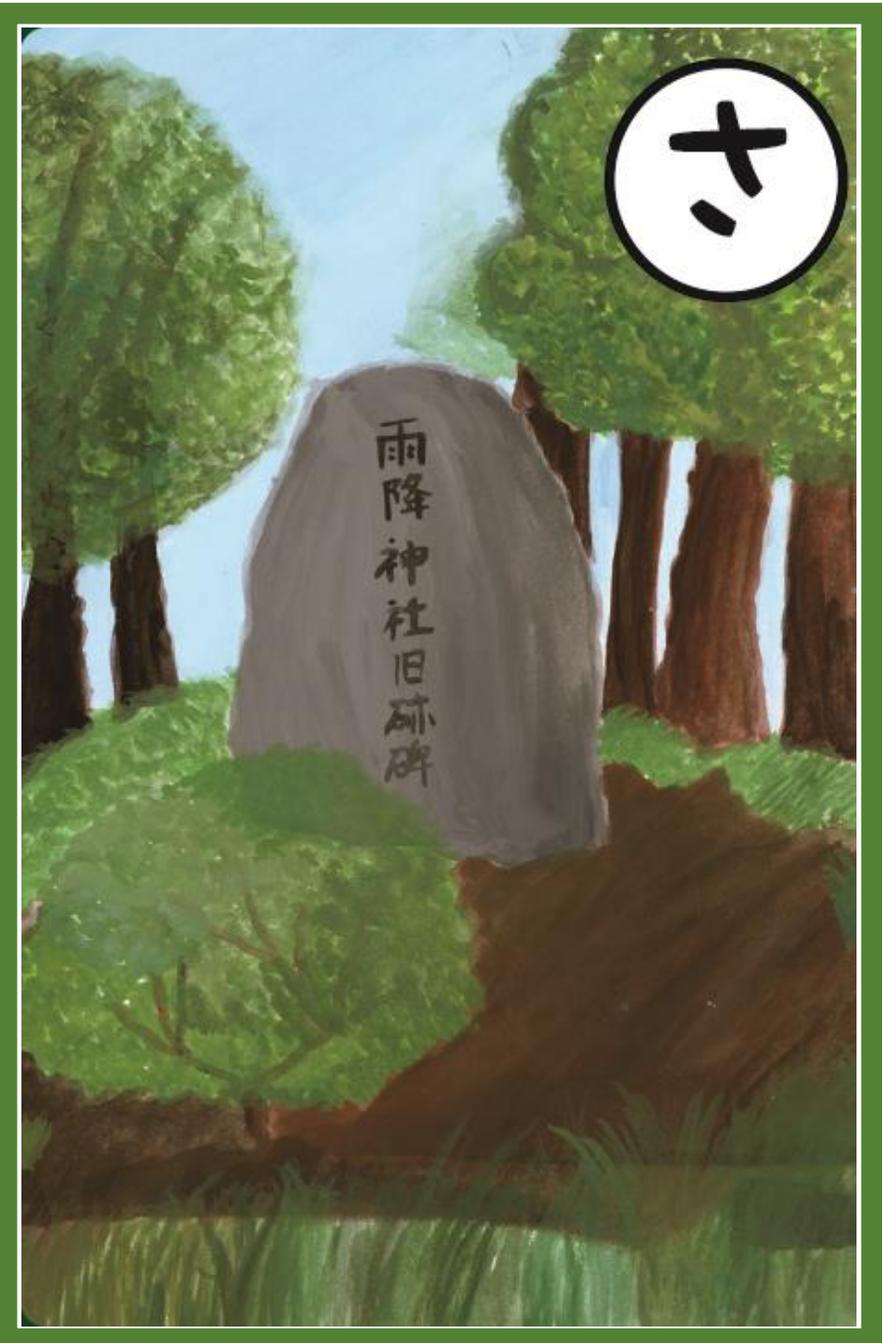


716年泰澄大師により帝釈天と諸仏を祀られましたが、織田信長の兵火で焼失しました。その後「雨降神社」として帝釈天を祀りました。現在は「雨降神社旧跡の碑」が残っています。

『帝釈天・三里山 下新庄町』

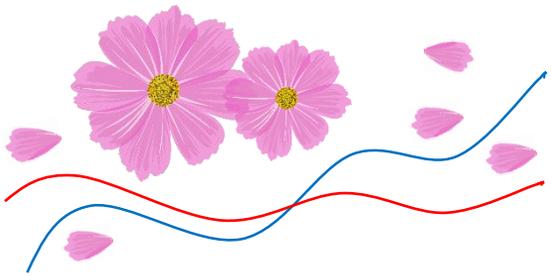


信^{しん}仰^{こう}あつめた

帝^{たい}釈^{しゃく}天^{てん}

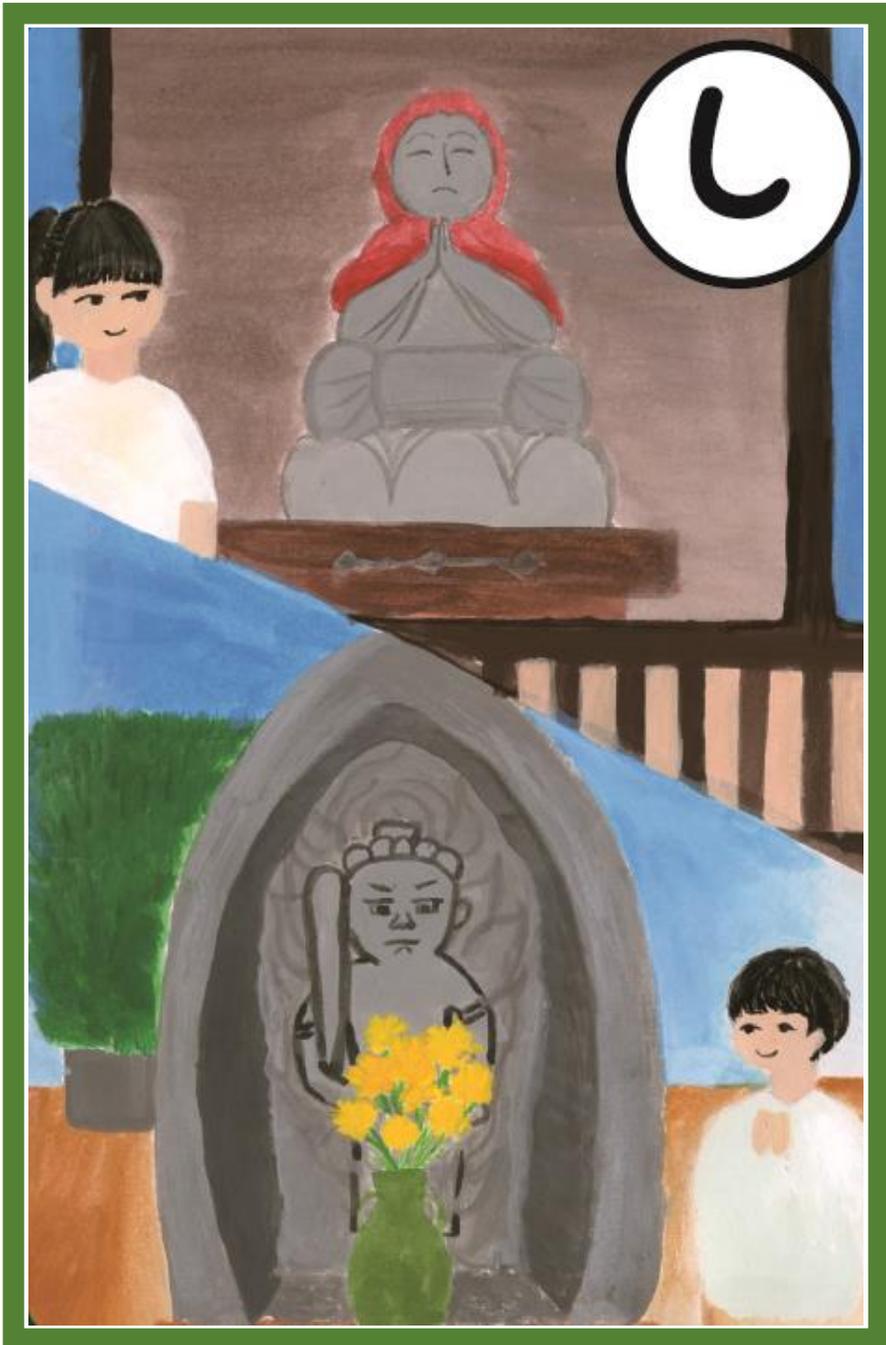


三^{さん}里^り山^{やま}

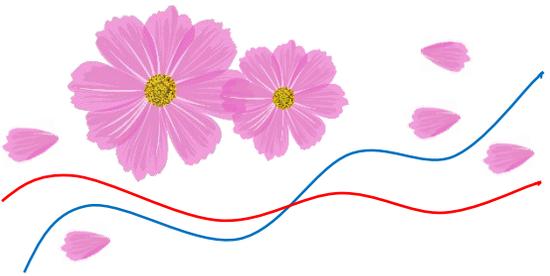


昔、旅の僧が村人に一杯の水を欲しいと頼みました。村人は井戸水が涸れていたもので、遠くまで汲みに行き僧にあげました。お礼にと僧が杖で地面を突くとそこから水が湧き出で、それからは涸れることがありませんでした。感謝した村人は地蔵を祀り、七月二十三日には男児と女兒に分かれ地蔵祭を行うようになりました。

『地蔵祭り 五郎丸町』

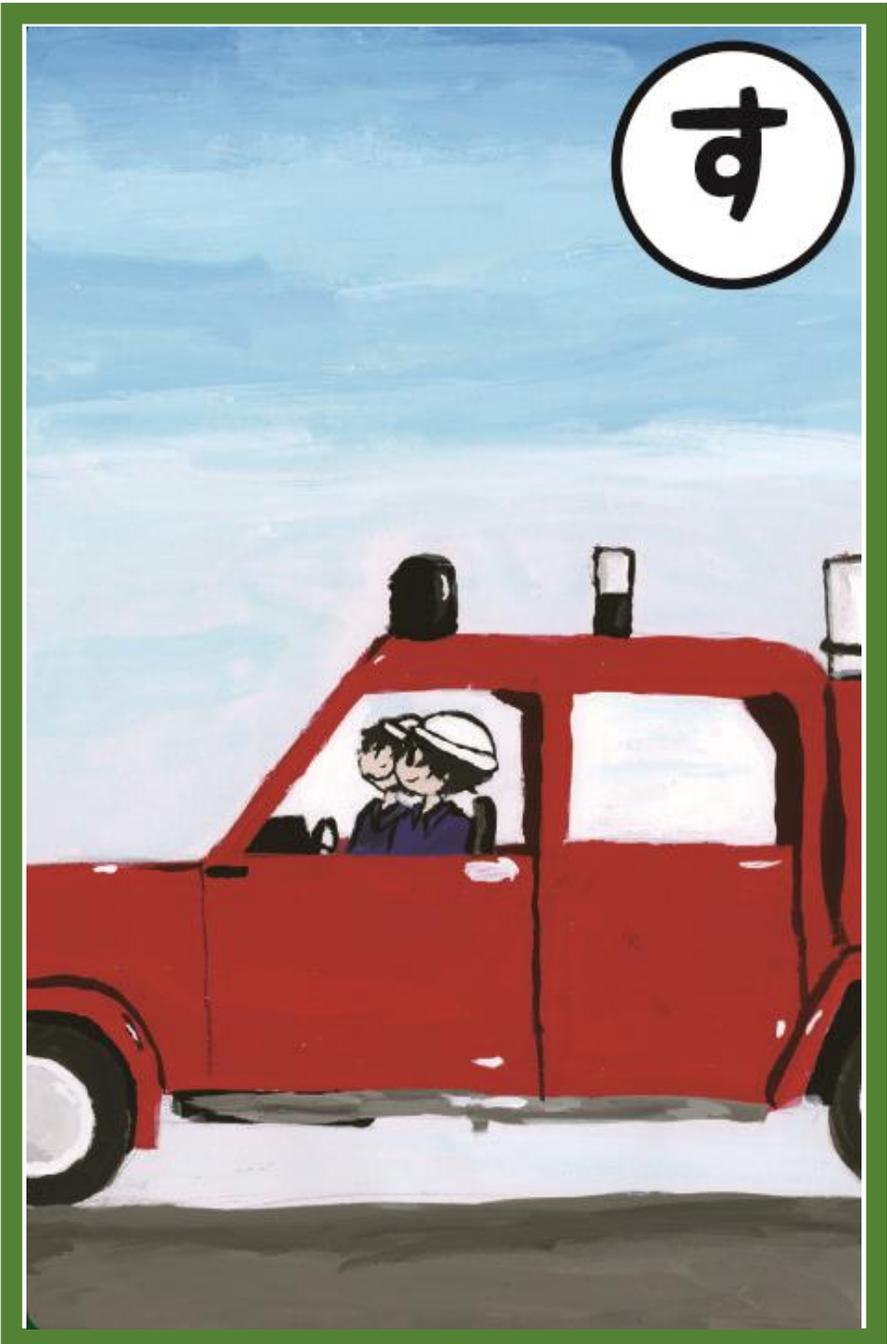


し
おとこ 男 じ ぞう
おんな 女 じ ぞう
地蔵祭り まつ
地蔵と



新横江地区には鯖江消防第3分団があり、
火事や災害時にいち早く駆けつける体制を
とっています。地元の安全を守る頼りになる分
団であり、日頃から火災予防の見回りや避難
訓練時の指導なども行っています。

『消防団 新横江地区』

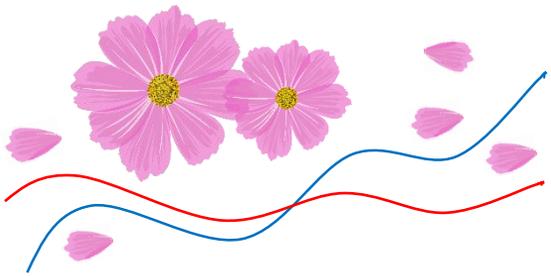


す

すぐ出動 しゅつどう

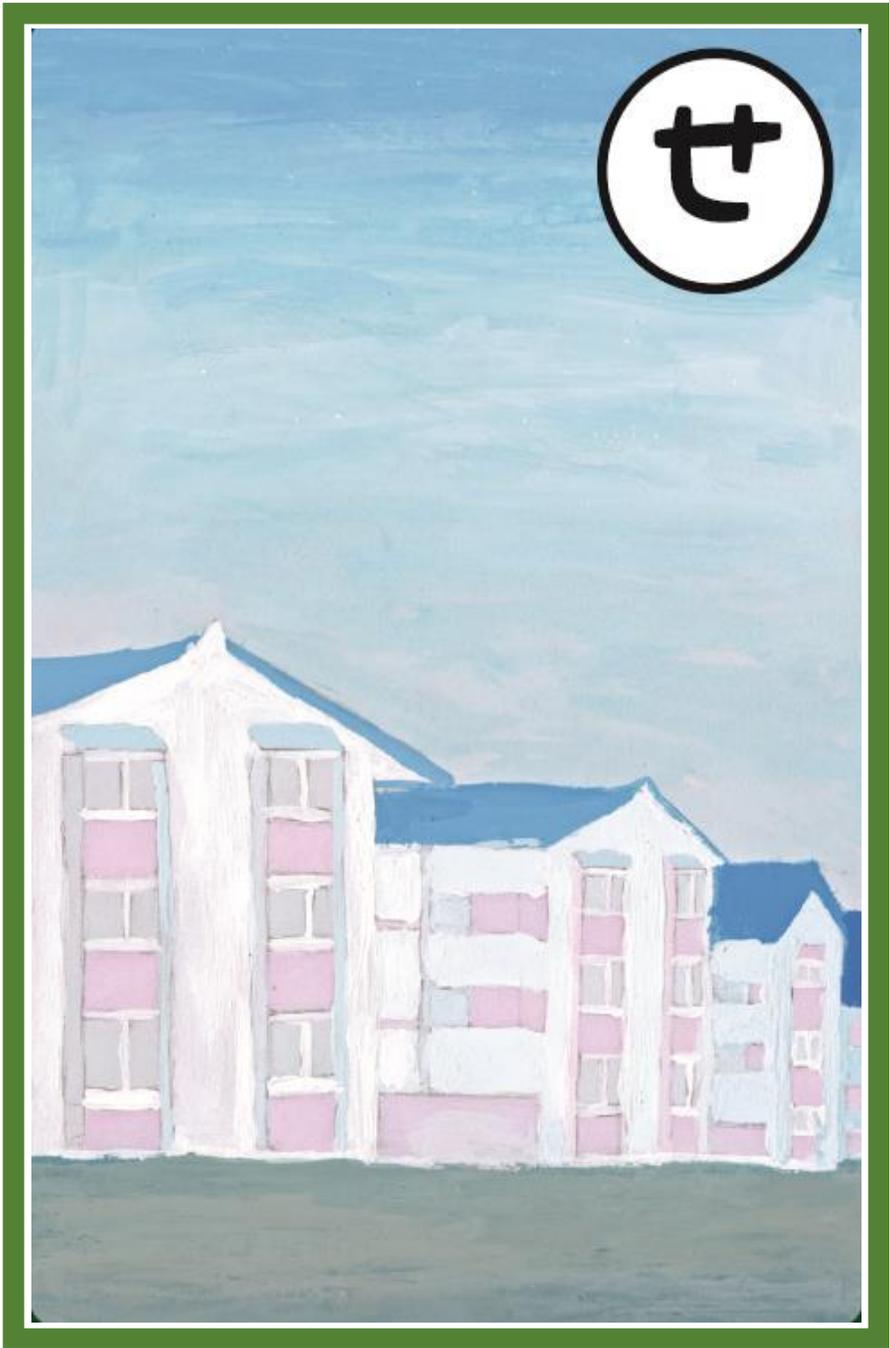
分団魂 ぶんだんたましい

地区の華 ちくはな



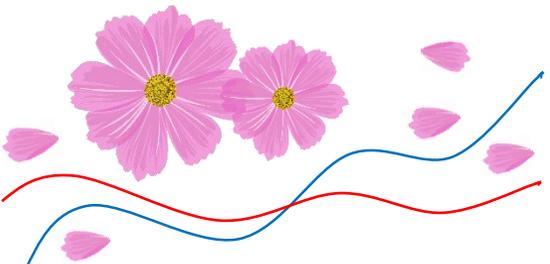
世界体操選手権はそれまで世界の大都市で行われていました。1990年に初めて鯖江のような規模の小さい地方都市で行われました。この大会の宿泊所として建てられたのが現在の定次団地のアパートでした。大会終了後は市営住宅として現在4棟が運用されています。

『世界体操 定次団地』



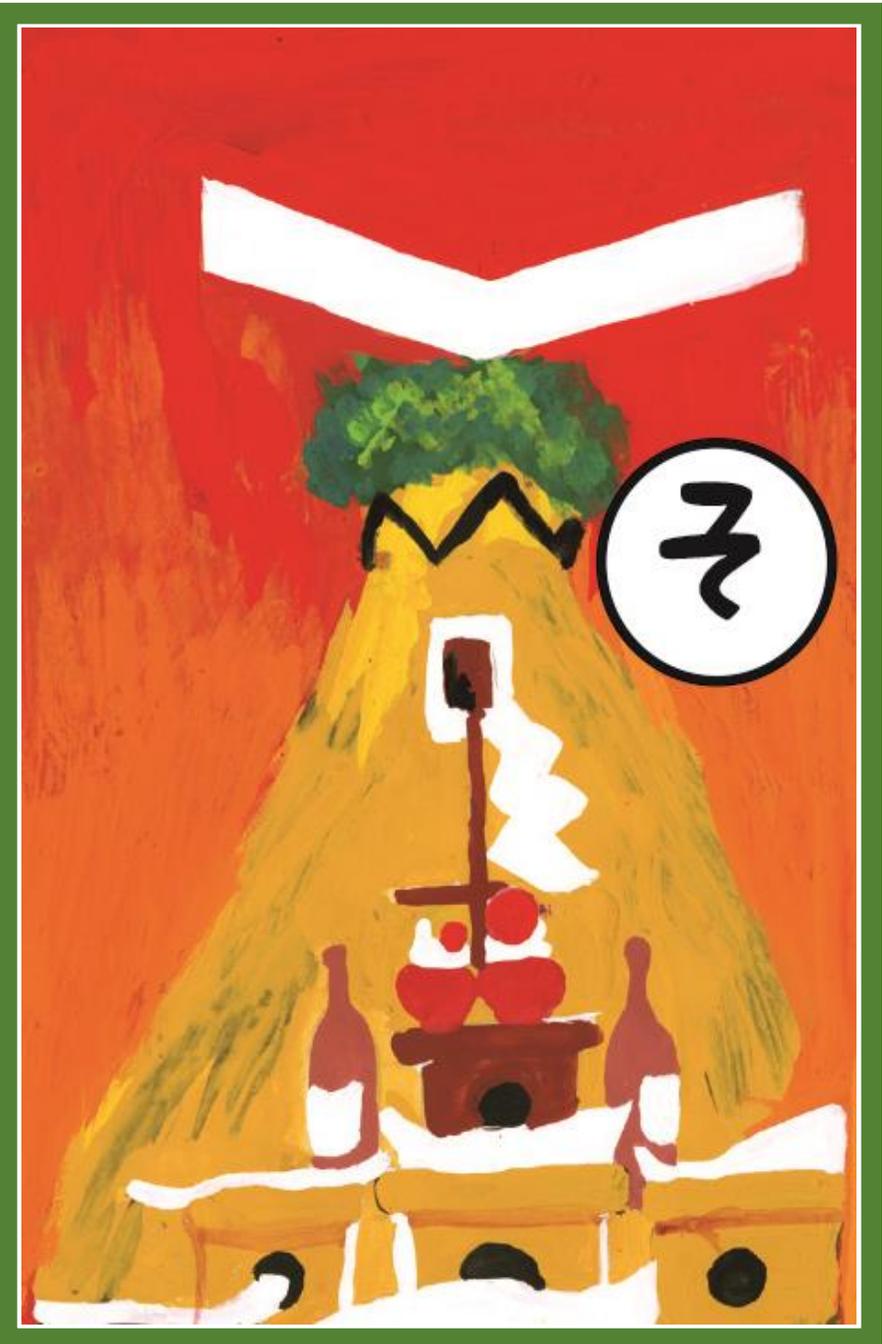
契機にできた
定次団地

世界体操



新横江地区の各町内では正月明けに左義長が行われています。藁や木、竹で大きな円錐状に立てたその中に正月飾りやお札などを入れ燃やします。この火で焼いた餅を食べると無病息災でいることが出来ると伝えられています。又、厄年の娘さんが「火打ち」と呼ばれる三角の飾り物を吊し、厄払いを祈願する町内もあります。

『左義長 新横江地区』



そら
空こがし

む
びょう
そく
さい
無病息災

さ
ぎ
ちよ
ひ
左義長の火